

## ■先の大戦の慰靈及び関係者との面会

訪問したインドネシアでは、G20会合を中心に、他にも様々な活動をいたしました。

まずジャカルタで「独立宣言文起草博物館」を訪問。ここは名前の通り、わが国の敗戦二日後、スカルノ氏やハッタ氏などが中心となり、インドネシア独立宣言文を起草した場所。館内にその原文が掲示されています。この宣言文の日付の最後に「05」という文字が見えますが、これは「皇紀2605年」のこと。一部ではよく知られた話ではありますが、原文を見てみると一層感慨深いものがあります。

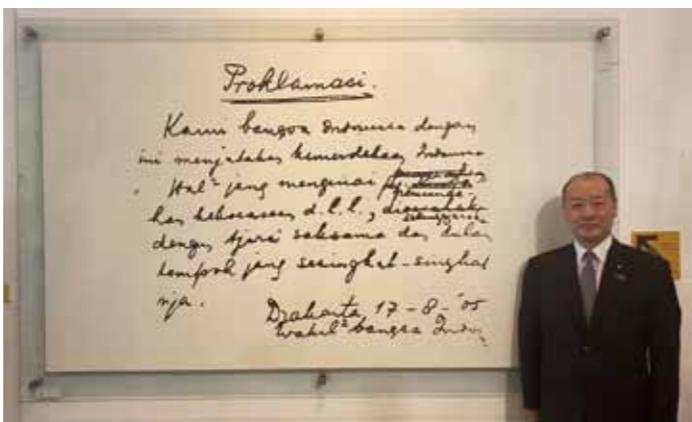
続いて「福祉友の会」（インドネシア独立戦争に参加し同国国籍を取得した残留日本人有志により1979年に結成された互助団体）歴史ギャラリーへ伺い、ヘル・サントソ衛藤会長に面会。今までのご労苦に心からの敬意と感謝を申し上げ、引き続きカリバタ英雄墓地へ同行していただき、正式参拝し献花、記帳。私の参拝は地元の日本語メディア『ジャカルタ新聞』にも掲載されました。

翌日はバリで、マルガラナ英雄墓地に参拝し献花。両墓地とも、インドネシア独立戦争で散華したインドネシア人、日本人が手厚く葬られています。

その後バリ日本人会の皆様に面会。現地生活の中でのわが国への要望等を拝聴。ウダヤナ大学訪問では、日本語を学ぶ大学生の皆さんと貴重な交流の機会を得ることができました。

インドネシアは石油・天然ガス等の資源産出国であり、人口2億7000万人、国民の平均年齢29歳という、極めて将来性の高い、歴史的にも深い関係の親日国です。

この度、外務大臣政務官として両墓地に慰靈の正式参拝ができたこと、また現地の関係者と親しくお会いできたことで、一層有意義な訪問となりました。



独立宣言文起草博物館に展示されている宣言文の拡大レプリカ。日付に「05」の文字が見える



カリバタ英雄墓地正式参拝



マルガラナ英雄墓地正式参拝



ウダヤナ大学の日本語を学ぶ学生たちとの交流

随时、情報を発信中!  
高木けいSNSアカウントを  
ぜひチェックしてください!



<https://twitter.com/takagikei310>  
<https://www.facebook.com/Takagi.Rep/>  
<https://takagi-kei.com/>



Twitter Facebook ホームページ

### 地元王子本町事務所

〒114-0022  
北区王子本町1-14-9-202  
ウェーブ エスコルタ  
電話:5948-6790  
FAX:5948-6791

### 議員会館事務所

〒100-8982  
千代田区永田町2-1-2  
衆議院第2議員会館310号室  
電話:3508-7601  
FAX:3508-3981



### 自民党员を募集しています!

入党のお申し込みは高木けい事務所までご連絡ください。

一般党员  
年額 4,000 円

家族党员  
年額 2,000 円

自民党は国民党として広く  
国民の支持をいただくために、  
常時党员を募集しています。

## 国政レポート 第13号

# 衆議院議員 高木けい 未来を創る! 新たな挑戦。



## 外務大臣政務官に就任 国の代表としての役割を実感

今秋の臨時国会は10月3日に召集されました。8月12日に岸田内閣の外務大臣政務官を拝命して以来、初の国会となりますので、緊張しますがしっかりととめていきたいと思います。

この間、外務大臣政務官として二度の国際会議に出席（10月3日現在）し、国代表として働くことの重みを、改めて強く感じました。

一方で、外交は人との繋がりが重要であることも再認識。安倍元総理が長期にわたり日本の顔として活躍されたことが、わが国にとっていかに有益であったか、国外において改めて感じることでもありました。

さらに、わが国は「大国」であることを、海外では特に強く感じさせられます。技術力、経済力、信頼性など、わが国への期待は非常に大きなものがあります。それに応えるためにも、わが国を（経済）成長しない国から、成長する国に転換させなければなりません。根本的にはそれが一番大きな、国際社会におけるわが国の責任及び役割とすら思います。

このような仕事をつとめさせていただけるのも、多くの皆様のお支えがあるからです。これからも全力で頑張ります！一層のご指導ご鞭撻をよろしくお願ひ申し上げます。



第2次岸田改造内閣にて外務大臣政務官を拝命(2列目左端)

## ■G20エネルギー移行大臣会合(9/4~6インドネシア・デンパサール)

G20エネルギー移行大臣会合に、外務大臣政務官として出席。わが国は石油や天然ガス等のエネルギー消費国であり、現状では自国でエネルギーを賄うことができません。したがって、エネルギーを輸入に頼らざるを得ず、エネルギー安全保障上、できるだけのリスク分散とその立場を様々な国際機関とともに堅固なものにしていく必要があります。

その意味で、この会議を通じて、下記の通り主要な国際機関の実務者と個別会談ができたことは、極めて有意義なことでした。



### ■OPEC(石油輸出国機構)

アル・ガイス事務局長と産消対話（資源産出国と消費国の対話）の実現に向けて努力すること、エネルギー移行とエネルギー安全保障は対立するものではなく補完的なものとの見解で一致。また、わが国は来年G7議長国。サミットでエネルギー問題が重要なテーマになると思われる所以、その際の協力要請を快諾いただいた。

「OPECは日本政府との対話の機会を増やしたい」とのメッセージが印象的。



### ■IEA(国際エネルギー機関)

ファティ・ビロル事務局長とエネルギー安全保障及びエネルギーアクセスについて意見交換会。産消対話の重要性についても意見が一致。その中で、インドのエネルギー消費増大に対して、G20まで拡大した産消対話が効果的との指摘はさすがの慧眼。

(IEAとは...仮に石油の供給途絶が起こった場合、わが国にとってIEAの緊急時対応システムは極めて重要。IEAは日本のエネルギー安全保障上、不可欠の存在)



### ■IEF(国際エネルギーフォーラム)

マクモニグル事務局長と、エネルギー移行を進める上で、万人に平等で廉価なエネルギーアクセスが必要、また化石燃料の需給バランスが崩れている（需要量に対して供給が追いついていない）現状に鑑み、一層の上流投資が必要との見解で一致。

(IEFとは...石油・ガス等の産出国と消費国が閣僚レベルで、エネルギー市場の安定等について非公式な対話をを行う枠組み)



### ■IRENA(国際再生可能エネルギー機関)

ラ・カメラ事務局長と再生可能エネルギーへの移行に向けた、エネルギー安全保障とエネルギーアクセスの重要性について意見交換。現実的な方策が必要との見解で一致。

(IRENAとは...再生可能エネルギー（太陽、風力、バイオマス、地熱、水力、海洋利用等）の普及及び持続可能な利用の促進を目的として設立された国際機関)



### ■米国エネルギー省

ターク副長官とエネルギー問題全般の日米連携強化について意見交換。現下のエネルギー危機を乗り切るために、上流投資や技術開発の促進、アジア全体のエネルギー安全保障とエネルギーアクセスに、日米で力を合わせ取り組んでいくことで一致。また、わが国が来年G7議長国となるのを機に、日米で知見を持ち合い、水素普及のきっかけを作っていくとの期待感も表明された。



## ■G20貿易・投資・産業大臣会合(9/21~23インドネシア・デンパサール)

G20貿易・投資・産業大臣会合に、外務大臣政務官として出席。全体会4つのセッションで3回の発言、4人との個別会談を通じて、わが国的基本的立場である、自由で開かれた透明性の高い国際貿易の推進、およびWTOの一層の機能強化を訴え、多くの国と意見の一致を見ました。

今回の会合では、ロシアのウクライナ侵略を非難する文言をどのような形で入れるかについて各国の意見が別れていたため、最終的に閣僚声明はまとめませんでした。もちろん、わが国は欧米諸国と歩調を合わせ、領土と主権の一体性確保、ロシアによる一方的な現状変更を認めない等の原理原則を貫いたことは言うまでもありません。

国際社会のこの現状から、ロシアに対する強い非難が多くの国から上がるのも当然です。会議の中でロシア代表は、そうした各國からの非難に「テーマに沿った議論をしよう。ここに政治を持ち込むな」という発言をしていましたが、「貴国が侵略をやめればいいだけの話だ」と、私を含む大半の国々は思っていたことでしょう。それはつまり、戦争こそ世界経済の最大のマイナス要因だからです。

全体会の建前論はともかく、個別会談では以下の通り、それぞれ深い議論ができました。



### ■ITC(国際貿易センター)

#### パメラ・コーネ=ハミルトン事務局長

長年に渡ってわが国が同センターに貢献してきたことを高く評価していただき、特に開発途上国の中小企業支援、女性の経済的エンパワーリング等、今後も協力して取り組んでいくことを確認。「力を合わせて、世界を幸せにして行こう！」と固い握手。



### ■フィジー コヤ貿易・運輸大臣

ラグビーを通じたスポーツ交流、日本人シニア層のフィジー長期滞在への期待など、コロナ後の明るい展望を話し合いました。

気候変動対策で既にわが国が支援している事業もあり、フィジーは今後も太平洋島嶼国の重要な友人として、関係構築を継続していくことを確認。



### ■トルコ トゥズジュ貿易省副大臣

コロナで中断を余儀なくされたとはいえ、既に8年に渡って交渉している日・トルコEPAについて、かなり厳しいやり取りを行いました。お互いの立場を尊重し、改めて仕切り直しということで終了。

日本とトルコの歴史的に特別な友好関係を考えれば、お互いに納得できる合意に努力していくことを提案。



### ■英国 ドウドリッジ閣外大臣

会議場で隣の席だったので、最初にエリザベス女王陛下崩御に対する弔意を申し上げ、その後何かと話す機会が多く、2日目に個別会談の申し込みがありました。急なことでもあり、時間が取れず正式な会談はできませんでしたが、隣同士の席ゆえ会議の合間にミニ会談を実施。TPPに関して非常に有意義な話し合いができました。

